

むらた やすこ 村田 泰子 教授

専門分野・キーワード

- ジェンダー／フェミニズム理論
- 家族社会学
- 「母親」の社会学的研究

／ 教育・研究内容

わたしの専門は、「母親」についての社会学的研究です。社会のなかで女性に期待される役割にはさまざまなものがありますが、「母親」という役割はほかのどんな役割にもまして強固な生物学的基盤をもち、それゆえ、それを変えていくことはきわめて困難と考えられがちです。

これについて、1980年代半ば以降、フェミニズム的な問題関心をもつ研究者たちは、<家族>や<市場>といったマクロで抑圧的な社会構造のもとで女性の母親業が構築・維持されるしくみの解明に力を注いできました。また、社会構築主義の観点から、ことばとして語られる「母性」に焦点をあて、その社会的な被構築性や危険性を問う研究も多く世に出されました。

わたし自身の問題関心は、そのように女性を母親業に向かわせる強固な支配構造の存在をみとめたうえで、そうした構造のもとで編み出される、さまざまな対抗的実践について考えることにあります。竹村和子は、「慣れ親しんだフィクション」という表現を用いて、幼いころから長い年月をかけて培われた、自分は誰と親密な関係性を築くのか、どんな風に築くことができるのかといった感覚は、容易に変更可能でもなければ、それなしに他者との関係性を想像することはできないと述べました(竹村 2000)。そういう意味では、構造による支配からまったく自由なところで、まったく新しい実践について考えることなど不可能でしょう。

ただしまだ、実践をつうじて、慣れ親しんだフィクションが相対化されたり、部分的に書き換えられたりすることはあります。2023年に出版した著書『母になること』の社会学—子育てのはじまりはフェミニズムの終わりか』では、二種類の託児施設でのフィールドワークをもとに、乳児の子育てをめぐる強固な神話が書き換えられていくさまを考察しました。京都市内のシルバー人材センターの女性スタッフが運営する託児所では、子どもの養育に他者の手を借りることをためらっていた母親たちが、初めての託児に踏み出す様子が見られました。また、西宮市内の認可保育施設の「乳児保育」では、現行の育休制度や保育制度とのかねあいで、しばしば不本意なかたちで0歳から保育所を利用した母親たちが、いわゆる「三歳児神話」を自分たちに都合よく書き換える様子などがみられました。

現在は「マザリング」についての研究グループに所属し、知識社会学の観点から、日本ならびにイギリス社会における「愛着理論」の受容と変容についての研究を行っています。

ゼミでは、日本の学生や中国からの留学生たちが、家族やジェンダー、セクシュアリティにまつわるさまざまなテーマについて探求しています。ゼミは学生による研究報告と文献講読が中心になります。

参考までに、過去に指導したことのある研究テーマには下記のものなどがあります(副指導を含む)。

- ・ 現代中国都市部における男性同性愛者の「形婚」に関する社会学的研究
- ・ 在日中国人既婚女性の「代理購入」に関する社会学的研究
- ・ いけばなとジェンダー
- ・ マナーの社会学的研究
- ・ トランスジェンダーのライフヒストリー研究(副指導)など

／ 代表的な著書・論文等

- ・村田泰子 2023『母になること』の社会学—子育てのはじまりはフェミニズムの終わりか』昭和堂
- ・村田泰子 2018「家族政策と社会階層(後編)—イギリスソルフォード市「プレストメイツ(Breastmates)」の実践から考える、オルタナティブな母乳育児支援の可能性」『関西学院大学社会学部紀要』129号 11-28頁
- ・村田泰子・伏見裕子 2016「明治期から昭和初期における小児科医の母乳への関心—『児科雑誌』の分析から」124号 63-78頁
- ・村田泰子 2015「授乳がつくり出す社会関係—厳格な食事制限をともなう母乳哺育を行う母親の語りと実践から」『関西学院大学社会学部紀要』第121号 77-91頁

／ 研究紹介のホームページなど追加情報

Professor Yasuko Murata

Areas of Expertise / Keywords

Gender studies

Sociology of family

Sociological study of motherhood

Feminist theory

I have had a long-standing interest in the issue of motherhood since the early days of my scholarship. In Japan, there is a strong cultural belief that infants and small children can best grow up if they are looked after by their birth mothers, which makes it difficult for some women to mother. My work addresses the ongoing gendered inequalities in familial relationships, lack of support, and how they are maintained but at the same time transformed through individual practices. In other words, my work addresses the conflicting aspects of contemporary motherhood.

I carried out qualitative research (fieldwork and interviews) at various types of nurseries and breastfeeding support groups in both Japan and the United Kingdom. I also conducted a historical analysis of the medical discourses on infant nutrition and breast milk in the early 20th century in Japan.

Everyone is welcome to our graduate seminar if you are interested in issues such as gender, intimacy, family, care, sexuality, and personal life. Participants were expected to present their work and read the books in turn.

For your reference, I have supervised the following master's theses in the past:

- A Sociological Study on the "Contract Marriage" of Male Homosexuals in Urban China
- A Sociological Study of Manners: A Case Study of a Manner School in Nishinomiya
- The Transformation of Cultural Presentations of Young Female Fans in China
- Social networks and social adjustment of married Chinese women in Japan
- A Sociological Study of Transgender and Health

Main Publications

My work (in Japanese) includes the following articles:

Murata, Y. (2023, forthcoming) *Sociology of Becoming a Mother: Rethinking the Subject of Feminism*, Showa-do.

Murata, Y. and Fushimi, Y. (2016) "Concerns of pediatricians towards breast milk from Meiji Enlightenment period to early Showa period in Japan: A sociological analysis of Japan's first pediatricians' magazine," in *Kwansei Gakuin University School of Sociology Journal*, (124),

63-78.

Additional information, including a website for research introduction

Since October 2021, I have been involved in activities at the Center for the Study of Embracing Diversity, a special project research center at Kwasei Gakuin University. For more information, visit our website (www.kg-diversity.com/).